

Vol.
13

進化し続けるコンブ栽培試験

2022/1/25 自然環境部 海域担当チーム 尾田 崇太郎

弊社が取り組んでいるコンブ栽培試験がさらなる進化を遂げましたのでご紹介します。

「藻場通信 vol.9」では、2020年11月～2021年6月までの水中ライブカメラ前で実施したコンブの栽培試験の軌跡をご紹介させていただきました。その試験の一環である単管施設では、「狙った場所に確実にコンブを繁茂させ、藻場を拡大していく」技術開発を進めるべく、施設を増設、新しい実証試験を開始しました。



写真1 増設した施設の一部

進めている実証試験には2つのテーマがあり、1つ目は「施設で栽培したコンブから遊走子が飛び、新たな藻場が形成されるか」を検証しています。具体的には、栽培したコンブの周辺に手を加えていない基質を準備し、栽培したコンブから遊走子が飛び、繁茂するかを観察します。

上記が実証されることで、遊走子供給の核となる藻場（核藻場）から藻場を拡大させることができるようになります。磯焼けが進んだ地域に施設を入れることで藻場を形成、拡大することを期待しています。

→核藻場としての機能を検証!



写真2 核藻場の機能を検証

2つ目は「藻場の拡大にあたり基質を再利用できるのか」を検証しています。基質は経年的に生育が悪くなると言われています。そのため、「新しいコンクリート板」、「再利用したコンクリート板」、「新しい天然石」、「再利用した天然石」を準備し、繁茂の違いを観察します。



写真3 基質試験施設の一部

これによりどのような基質が繁茂に適しているかを明らかにできます。

→藻場の拡大ができる環境の指標となる!

今後もさらなる進化を遂げていきます!以降の藻場通信にて試験経過を紹介していきますので、ご注目ください。